



日本発： 夢への挑戦 — ダマスクローズの精油抽出
—— 日本版ローズの谷「ローズピア」

写真1 ダマスクローズ

東名高速道路、名古屋インターから車で約1時間半、北東に走り、紅葉で有名な香嵐渓から10分ほど、標高500mの山奥でダマスクローズの精油抽出に挑戦されている渡邊敏遠ご夫妻をお訪ねしました。

6月1日の朝10時に現地に到着。晴天で気温は28℃。うっすらとかいた汗がひんやりとした日陰に入るとスーッとひき、ヒノキの森ではさかんに鶯が鳴き、周りは色合いに幾分差こそあれ、圧倒的な緑一色です。

残念ながらまだ、ダマスクローズは2分咲き程度でしたが、その香りは強過ぎず、適度に甘く、今までのローズの香りの印象とは全く違ったものでした。6月中旬には満開になるとのことでしたが、女王クレオパトラにでもなったような気分になれるのではないのでしょうか。

■始めたきっかけ

ダマスクローズは3トンの花弁から1000ml、花弁百数十個から1滴の精油しか取れないと言われているほど貴重な精油。「それを是非採ってみたい。特に家内がローズを大好きで」とやさしく話される今年75才になられた渡邊さんは、柔和なお顔からは想像できないバイタリティーの持ち主で、平成16年9月にまずブルガリアのローズの谷に実際にご夫婦で見学に行かれ、交通事情の悪い地方にも関わらず、580キロも車を走らせ栽培の現場からバラ研究所まで視察されたそうです。「栽培の現場を見て、どのような間隔でどの位の大きさのバラを育てているのか、また、抽出の現場も見てみたかったので」と渡邊さん。

3000坪ほどの敷地に数百本のダマスクローズが無数の花を咲かせ、大型の銅製蒸留器も含めた数台の蒸留器を駆使して、まずは数ミリの精油を抽出するというのがここ数年以内の目標。現在は、ダマスクローズの中でも香油成分が最も多いカザンリク種(ローズ博物館があり、バラの谷の主要都市である Kazanlak 市の名を冠してる)を70株、ローズヒップが取れるオールドローズを10株、つるバラを30株、二期咲きのダマスクローズを20株植え、挿し木、接木や種取など増殖方法を試しています。



写真2 3000坪という広大な敷地を開墾

■苦労している点

日本で大量に栽培している方がおらず、全てが手探りとのこと。まずこの地を見つけ出し、更の開墾し、整地するだけでも大変だったのではないのでしょうか。

「家内と二人で愛知、三重、岐阜、長野、静岡を旅行時、現地不動産会社を訪ねバラ畑用地を探しました。30年間以上、サラリーマンをやっている間も続けていた養蜂での土地勘でここが良いのではと思い3000坪の山林を購入しました。初めは先ず700坪ほどヒノキと杉の混生林を開墾し、その後さらに2300坪ほど広げ、将来的には更に広げることができればと思っています」と渡邊さんは将来の展望をお持ちです。

広大な敷地のあちらこちらにウッドチップが積み上げてあります。

「ここは花崗岩が風化した砂地で、水はけが良く、雨量が多く、今でも鶯が鳴いているくらい涼しいためバラの栽培には本当に適しています。ただ、肥料食いで乾燥を嫌うので、保水と同時に土地をバラが好むpH5.5から6の弱酸性にするためウッドチップを大量に入れてあります。今までに2トントラック25台分は入れましたね。水遣りのためには最近井戸も2本掘りましたし、敷地の奥にある池からも3箇所水を撒くための水槽も設置しました。また、ブルガリアは北緯43度、北海道の富良野地方の緯度ですので、ここでは幾分気温が高いために株が大きくなり過ぎるので今年から株間をあけるように移植も始めています」と渡邊さんは話します。



写真3 ローズカップ

バラはオシベが開く前、朝方の10時前までが良い香りする。また色が濃い方が、より香りがよい。このバラの花を15、6個入れたローズカップを畑にいらした方にプレゼントしている。

カップの上部は指で押すと簡単に十円玉位の大きさの穴が開くように切り込みが入れてある。プレゼントされた1歳の男の子はリラックスするの帰るまで離さず、ずっと香りを嗅いでいた。

■主な作業

12月の後半から1月中は地面が凍結しているので畑仕事はお休みです。主に今栽培しているバラは一期咲きなので2月の前半に寒肥をしています。ただ、窒素・リン・カリの有機肥料のバランスは10:10:10が良いのか、何が香油成分を増やすのかなどは全く試行錯誤の連続。また、このバラは黒点病に弱いので一度状態を見ながら2月に消毒を行い、うどんこ病には強いのでそれ以降、花が終わるまでは消毒はしていないそうです。

「バラのジャムも作っていますのでなるべく無農薬で作業をしています。このバラのジャムですが、バラの花弁の繊維は熟にも強く、ジャムにしても花びらの形が残っており、紅茶などに入れるとパツと開き、とても良い香りがします。ローズジャムはブルガリアでは肌の老化防止、顔つやを良くする効果があると言われていていますね」と渡邊さん。

■ローズオイルの抽出

ここでは、アランビックと呼ばれるポルトガル製の銅製蒸留器を使っています。

「ステンレスやガラス製がありますが、銅製は熱効率が良く、銅イオンの殺菌効果のためか良質の精油やローズウォーターを抽出することが出来ます。蒸留器のサイズは4ℓのカラムタイプと5ℓ及び20ℓの一般的なアランビック蒸留器でハーブやバラなどの採取量により使い分けています。色々改良を加え、3台の冷却槽にはポンプで引いた



写真4 銅製蒸留器 アランビック

池の水を蜂蜜用タンクを改良したもので自動的に給水したり、冷却槽に排水パイプを溶接などして使い易くしています。熱源は薪をたくタイプとコンロを使うタイプとがありますが、火力調節

にはコンロタイプが良いようです」。

蒸留用の水は畑の山が突き出したところを掘った井戸水を使っているそうで、去年は5ℓタイプで花弁を袋に入れて直接水に浸し(いわゆるハイドロ蒸留法)、ローズウォーターを採り、ローションや飲料として使ったということです。とても良い香りで、特に更年期の女性に良い効果があるようです。バラの香りは嗅ぐだけでも元気になります。

「そうそう、ローズウォーターを抽出した後の花弁がもったいないのでバラの木の根元に堆肥にでもと捨てたら、いきなり用心深いカラスが飛んできて、あっという間にみんな食べたんですよ」と奥様。それくらい安全で美味しいのでしょうか。

実はお土産に頂いたローズカップを家で飼っているミニチュアダックスに嗅がせてから、近くのサイドテーブルに置いたら、サイドテーブルに足を掛けるように立ち上がって吼え、バラを欲しがるので、花弁を一枚あげたらペロツと食べてしまいました。



写真5 ローズオイルは花弁百数十個から1滴しか採れない

■ 蒸留について

「今年初めて4ℓのカラムタイプ(バラの花やハーブを入れる煙突状の筒が付いている)を使用したらリベットの部分から水蒸気が漏れたので、小麦粉(本来はライ麦粉の方が使い易いようです)を水で練って貼り付けたら漏れが止まりましたが、蒸留器が昔ながらの手造りのためか、昔ながらの対処法が必要のようです。また、この筒状のカラムにバラを詰めて水蒸気蒸留法で精油の抽出を試みましたがなかなか水蒸気が上がらず、カラムを外して、昨年同様にハイドロ蒸留にしたら簡単に水蒸気が上がり、ローズウォーターが取れました。解決法としては「バラの花弁の組織が強いため水蒸気の抜けるカラムの穴にペツタリと幾重にも重なって貼り付いてしまうので、バラを麻などの袋に入れてからカラムに入れればうまく行くと思います」とのこと。いずれにしても「この位のバラの量ではローズオイルまでは採れません」とおっしゃっていました。

抽出の際のそれぞれの比率については「これはもう秘密の世界です。どれだけのバラの花に対してどれだけの水を入れ、どの位の時間、何ℓの精油を含むローズウォーターを採るか、その年の降雨量や乾燥状態にもよるでしょう。一度蒸留したものを再蒸留するという手もあります。どの時点で火を止め、蒸留をストップするかは冷却槽から出てくるウォーターの香りで判断するしかないのではないのでしょうか。これもまた経験の世界です」と語ってくださいました。



写真6 バラの精油抽出は秘密の世界

■ 今後の目標

これからの活動について、渡邊さんはこう話されます。「とにかくローズオイルを採れるだけの株を増やし、また増やすためにさらに土地を広げて開墾し、株分けの方法、肥料の改良、抽出法の試行錯誤と、やることだらけです。将来は、出来上がったローズオイルを日本発のダマスクローズオイルとしてブルガリア国立 Bulgarska Rosa 研究所に送りたいですね」。私もその日を楽しみにしたいと思います。



写真7 渡邊さんご夫妻

* 渡邊さんご夫妻はほとんど朝から晩まで「ローズピア」で作業をされていますのでご連絡をとりたい場合は、先ずファックスを送られることをお勧めします。

ファックス番号: 052-736-1670

写真提供: ㈱日本メディカルサービス

□ 著者プロフィール

Norikuni Matsudaira

松平 徳邦



1976年米国コーネル大学ホテル学科卒。ニューヨーク、エセックスハウス勤務後

1979年輸入商社㈱日本メディカルサービス設立、代表取締役。

2002年よりイタリア製、低温高圧抽出機を販売。その後ポルトガル製銅製蒸留器を輸入。販路を拡大するため蒸留器を用いた町おこし、村おこしのコンサルティング業務を開始。ジェトロ貿易アドバイザー